

十二
月
洋
神
社



9220-2

437

I-0521

0449

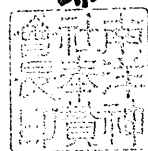
情報部

第三課長

昭和十一年九月二十五日

南洋神社奉賛會

會長 北島謙次郎



438

有田八郎 殿

分類 J. 2. 2. 0. 2

南洋神社造營資金募集ノ件御依頼

謹啓

時下益々御清祥ノ段奉賀候

陳者南洋群島ニ於テ其ノ總鎮守ルキ神社ヲ要望スル
ノ聲大ナルモノアルニ鑑ミ先般同志相謀リ南洋神社奉賛
會ヲ設立シ別紙趣意書並ニ計畫大要ノ通大方諸賢ノ義醜
ニ依リ南洋群島パラオ島ニ南洋神社造營ヲ企畫致候
本造營資金トシテハ貴賤貧富ノ別ナク老若男女ヲ問ハス
淨財ノ寄進ヲ仰キ度朝野各方面ニ對シ廣ク之カ勸募方ヲ
御依頼致セル次第ニ御座候就テハ御繁務中眞ニ恐縮ノ至
ニ候ヘ共本事業ノ趣旨ニ賛セラレ貴管内一般ヨリ本事業
資金ノ御勸募方特ニ御配慮相煩度此段及御依頼候

敬具



9220-2

439



9220-2

昭和十一年拾月七日 接受
別紙添付

12.10.8.

I-0521

0450

南洋神社奉賛會要覽

趣意書
會則
計畫大要



9220-2

440

I-0521

0451

南洋神社奉賛會趣意書

駁駁乎トシテ發展途上ニ在ル日本ノ進出スヘキ方面ハ多々アルヘキモ内外南洋ノ如キ少クモ其ノ重要ナル一方面タルヲ失ハサルナリ

南洋群島ノ我カ統治ニ歸シテヨリ其ノ擁スル熱帶特有ノ好條件ハ邦人ヲシテ陸續渡南移住セシメタリシカ最近南方策ノ樹立セラレ群島カ帝國南進ノ據點トシテ重大ナル役割ヲ演スルニ至ルヤ此ノ傾向ハ益々助長セラレ邦人人口ノ激増更ニ著シキモノアリ今ヤ是等邦人ハ協心戮力群島ノ開發ニ努メ帝國南進ノ地歩ヲ鞏固ナラシメ以テ國運進展ニ寄與セントシツゝアリ

既ニ沖天ノ猛志抱キテ故郷ヲ後ニ渡南シ來レル移住者ノ意氣ヤ壯トスヘク之ヲ中道ニシテ挫折セシムヘカラス宜シク植民地特有ノ不安定ナル氣分ヲ一掃シ各般ノ施設ヲ講シ其ノ安住ニ資スヘキナリ之カ施設トシテハ種々アルヘキモ就中精神の方面ノ夫トシテ神社造營ノ如キハ最モ緊要不可缺ノモノナリトス



9220-2

441

I-0521

0452

思フニ敬神崇祖ノコトタル我國傳統ノ美風ニシテ又實ニ國民道德ノ根源タリ而シテ諸般ノ施政ハ常ニ祭祀ト一致シテ克ク其ノ實績ヲ舉ケ來レルヲ見ル 肇國以來二千五百有餘年茲ニ世界ニ比類ナキ歴史ヲ成セリ

帝國南進ノ第一線ニ立チ建國ノ精神ニ則リ四海ニ大義ヲ宣揚スヘク奮闘激勵ノ原動力トモナルヘキ神社南洋群島ノ守護神タル神社ノ造營ハ開發途上ニ在ル群島トシテ最大ノ急務ニシテ一度其ノ出現ヲ見ンカ日夕社殿ヲ仰イテハ崇嚴ノ念ヲ喚起シ神聖ナル皇國ヲ追懷シ故郷ニ在ルノ思アラシムヘシ而シテ未タ群島總鎮守タル神社ナク又南進第一ノ據點タルバラオニハ一ノ神社アルナシ轉タ寂寥ノ感ニ堪ヘサルナリ
茲ニ第十八回施政記念日ヲ迎ヘ過去ニ於ケル先人ノ苦心經營開發ノ跡ヲ辿リ其ノ努力ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表スルト共ニ將來ノ發展ヲ企圖シ吾人ノ決意新タナルモノアリ此ノ秋ニ當リ群島在住民ノ淨財ヲ以テ南洋神社ヲ造營セントシ敢テ聲ヲ大ニシテ大方諸賢ノ贊同ヲ乞フ次第ナリ

昭和十一年七月一日

南洋神社奉贊會會則

第一條 本會ハ南洋神社奉贊會ト稱ス

第二條 本會ハ南洋群島ノ鎮守トシテ天照大神ヲ祭神トスル南洋神社ノ造營ヲ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 神域ノ風致上必要ナル土地ノ選定

二 群島在住民崇敬ノ至誠ヲ捧クルニ必要ナル建造物ノ建設

第四條 本會ノ事務所ハ南洋廳内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ翼賛スル者ヲ會員トス

第六條 本會ニ對シ特別功勞アル者ハ之ヲ名譽會員ニ推薦スルコトアルヘシ

第七條 數人聯合又ハ團體ヨリ成ル寄附金ニ在リテハ其ノ組合又ハ團體ヲ以テ一會員ト看做スコトヲ得

S 9220-2 443

442

S 9220-2

I-0521

0453

第八條 本會ハ會員ノ功勞ヲ錄シ之ヲ南洋神社ニ納メ其ノ功績ヲ無窮ニ傳フ
第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名
副會長	三名
幹事	二名
評議員	若干名
書記	若干名

第十條 會長ニハ南洋廳長官ヲ推戴ス
第十一條 副會長幹事及評議員ハ會長之ヲ依闕ス
第十二條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
第十三條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第十四條 幹事ハ會長ノ命ヲ承ケテ會務ヲ掌理ス
第十五條 評議員會ハ會長之ヲ選舉シ事業ノ進行上會長ニ於テ必要ト認メ附議シタル

事項ヲ審議ス
第十六條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケテ會務ニ從事ス
第十七條 本會ハ各支應所在地ニ本會支部ヲ置ク

S 9220-2 445

S 9220-2 444

I-0521

0454

南洋神社造營計畫大要

南洋神社奉賛會ハ巴拉オニ南洋群島ノ守護神タルヘキ南洋神社ヲ左記要領ニヨリ造營セントス

- 一 社 格 無格社トス但將來ハ官幣大社ニ列格ヲ希望
- 二 社 號 南洋神社
- 三 祭 神 天照大神 御神體ハ伊勢大神宮ヨリ之ヲ受ク尙攝社金刀比羅宮ヲ設ク
- 四 鎮座地及境内地 巴拉オ諸島コロル島アルボドル高地
- 五 建設物

六 建設費及其ノ支辨方法
本殿、垣、門、鳥居、拜殿、神饌所、手水舎、社務所

經費總額	金一〇〇、〇〇〇圓
内 譯	
土木建築工事費	六八、〇〇〇圓
建築設計並現場技術員費	八、六〇〇圓
附 帶 工 事 費	二三、四〇〇圓
計	一〇〇、〇〇〇圓

造營總經費一〇〇、〇〇〇圓ノ中南洋廳ヨリ一五、〇〇〇圓ノ補助ヲ仰キ爾余ノ八五、〇〇〇圓ニ付テハ寄附ニ俟ツモノトス

S 9220-2 447

S 9220-2 446

I-0521

0455

南洋群島パラオ島
(南洋廳内)
南洋神社奉賛會

(南洋群島)



9220-2

448

I-0521

0456

南洋神社奉賛會要覽

趣意書
會則
計畫大要

I-0521 |

0450

南洋神社奉賛會趣意書

屢屢乎トシテ發展途上ニ在ル日本ノ進出スヘキ方面ハ多々アルヘキモ内外南洋ノ如キ少クモ其ノ重要ナル一方向タルヲ失ハサルナリ

南洋群島ノ我カ統治ニ歸シテヨリ其ノ擁スル熱帶特有ノ好條件ハ邦人ヲシテ陸續渡南移住セシメタリシカ最近南方策ノ樹立セラレ群島カ帝國南進ノ據點トシテ重大ナル役割ヲ演スルニ至ルヤ此ノ傾向ハ益々助長セラレ邦人人口ノ激増更ニ著シキモノアリ今ヤ是等邦人ハ協心戮力群島ノ開發ニ努メ帝國南進ノ地歩ヲ鞏固ナラシメ以テ國運進展ニ寄與セントシツゝアリ

既ニ沖天ノ猛志抱キテ故郷ヲ後ニ渡南シ來レル移住者ノ意氣ヤ壯トスヘク之ヲ中道ニシテ挫折セシムヘカラス宜シク植民地特有ノ不安定ナル氣分ヲ一掃シ各般ノ施設ヲ講シ其ノ安住ニ資スヘキナリ之カ施設トシテハ種々アルヘキモ就中精神的方面ノ夫トシテ神社造營ノ如キハ最モ緊要不可缺ノモノナリトス

思フニ敬神崇祖ノコトタル我國傳統ノ美風ニシテ又實ニ國民道德ノ根源タリ而シテ諸般ノ施政ハ常ニ祭祀ト一致シテ克ク其ノ實績ヲ舉ケ來レルヲ見ル 肇國以來二千五百有餘年茲ニ世界ニ比類ナキ歴史ヲ成セリ

帝國南進ノ第一線ニ立チ建國ノ精神ニ則リ四海ニ大義ヲ宣揚スヘク奮闘激勵ノ原動力トモナルヘキ神社南洋群島ノ守護神タル神社ノ造營ハ開發途上ニ在ル群島トシテ最大ノ急務ニシテ一度其ノ出現ヲ見シカ日夕社殿ヲ仰イテハ崇嚴ノ念ヲ喚起シ神聖ナル皇國ヲ追懷シ故郷ニ在ルノ思アラシムヘシ而シテ未タ群島總鎮守タル神社ナク又南進第一ノ據點タルバラオニハ一ノ神社アルナシ轉タ寂寥ノ感ニ堪ヘサルナリ
茲ニ第十八回施政記念日ヲ迎ヘ過去ニ於ケル先人ノ苦心經營開發ノ跡ヲ辿リ其ノ努力ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表スルト共ニ將來ノ發展ヲ企圖シ吾人ノ決意新タナルモノアリ此ノ秋ニ當リ群島在住民ノ淨財ヲ以テ南洋神社ヲ造營セントシ敢テ聲ヲ大ニシテ大方諸賢ノ贊同ヲ乞フ次第ナリ

昭和十一年七月一日

南洋神社奉贊會會則

- 第一條 本會ハ南洋神社奉贊會ト稱ス
- 第二條 本會ハ南洋群島ノ鎮守トシテ天照大神ヲ祭神トスル南洋神社ノ造營ヲ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
 - 一 神域ノ風致上必要ナル土地ノ選定
 - 二 群島在住民崇敬ノ至誠ヲ捧クルニ必要ナル建造物ノ建設
- 第四條 本會ノ事務所ハ南洋廳内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ翼賛スル者ヲ會員トス
- 第六條 本會ニ對シ特別功勞アル者ハ之ヲ名譽會員ニ推薦スルコトアルヘシ
- 第七條 數人聯合又ハ團體ヨリ成ル寄附金ニ在リテハ其ノ組合又ハ團體ヲ以テ一會員ト看做スコトヲ得

第八條 本會ハ會員ノ功勞ヲ録シ之ヲ南洋神社ニ納メ其ノ功績ヲ無窮ニ傳フ
第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- | | |
|-----|-----|
| 會長 | 一名 |
| 副會長 | 三名 |
| 幹事 | 二名 |
| 評議員 | 若干名 |
| 書記 | 若干名 |

第十條 會長ニハ南洋廳長官ヲ推戴ス
第十一條 副會長幹事及評議員ハ會長之ヲ依嘱ス
第十二條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
第十三條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
第十四條 幹事ハ會長ノ命ヲ承ケテ會務ヲ掌理ス
第十五條 評議員會ハ會長之ヲ召集シ事業ノ進行上會長ニ於テ必要ト認メ附議シタル

事項ヲ審議ス
第十六條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケテ會務ニ從事ス
第十七條 本會ハ各支廳所在地ニ本會支部ヲ置ク

南洋神社造營計畫大要

六

南洋神社奉贊會ハバラオニ南洋群島ノ守護神タルヘキ南洋神社ヲ左記要領ニヨリ造營セントス

一社 格

無格社トス但將來ハ官幣大社ニ列格ヲ希望

二社 號

南洋神社

三祭 神

天照大神 御神體ハ伊勢大神宮ヨリ之ヲ受ク尙攝社金刀比羅宮ヲ設ク

四鎮座地及境内地

バラオ諸島コロール島アルボドル高地

五建設物

本殿、垣、門、鳥居、拜殿、神饌所、手水舎、社務所
六建設費及其ノ支辨方法

經費總額 金一〇〇、〇〇〇圓

内 譯

土木建築工事費

六八、〇〇〇圓

建築設計並現場技術員費

八、六〇〇圓

附帶工事費

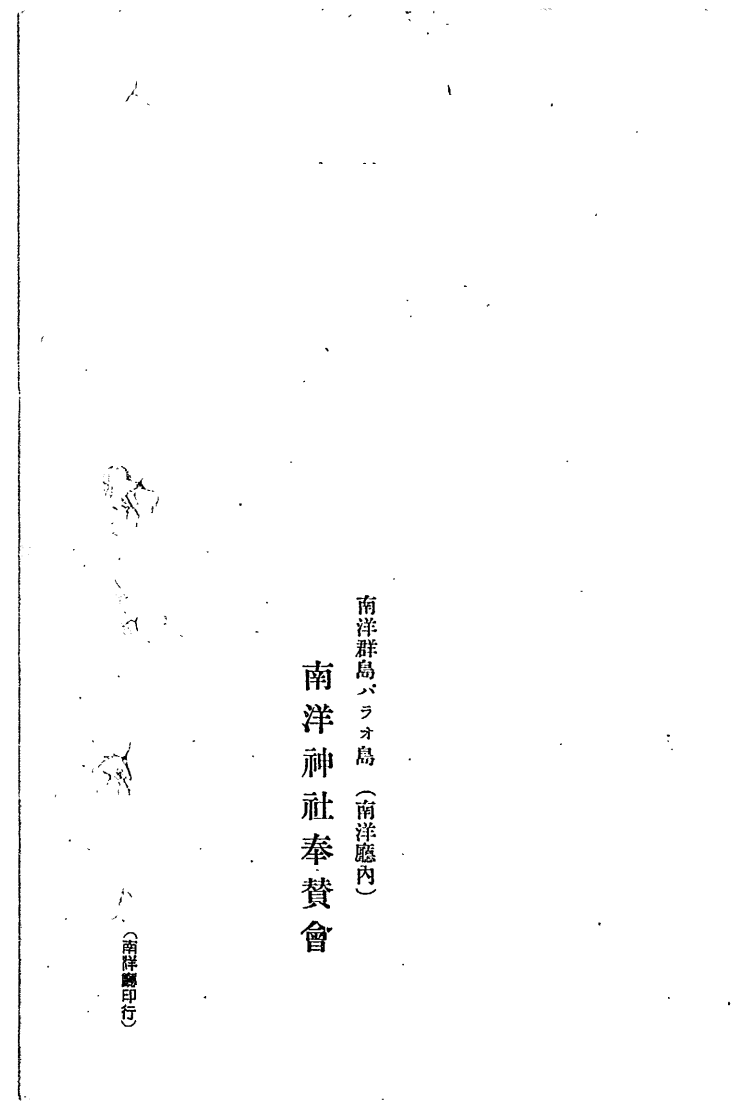
二二、四〇〇圓

計

一〇〇、〇〇〇圓

造營總經費一〇〇、〇〇〇圓ノ中南洋廳ヨリ一五、〇〇〇圓ノ補助ヲ仰キ爾余ノ八五、〇〇〇圓ニ付テハ寄附ニ俟ツモノトス

七



南洋群島パラオ島（南洋廳内）
南洋神社奉賛會

（南洋廳印行）

I-0521

0462

南洋神社奉會趣意書

駭乎トシテ發展途上ニ在ル日本ノ進出スヘキ方面ハ多クアルヘキモ内外南洋ノ如キ少クモ其ノ重要ナル一方向タルヲ失ハサルナリ
南洋群島ノ我カ統治ニ歸シテヨリ其ノ擁スル熱帯特有ノ好條件ハ邦人ヲシテ陸續渡南洋移住セシメタリシカ最近南方策ノ樹立セラレ群島カ帝國南進ノ據點トシテ重大ナル役割ヲ演スルニ至ルヤ此ノ傾向ハ益々助長セラレ邦人人口ノ激増更ニ著シキモノアリ今ヤ是等邦人ハ協心戮力群島ノ開發ニ努メ帝國南進ノ地歩ヲ鞏固ナラシメ以テ國運進展ニ寄與セントシツコ
既ニ沖天ノ猛志抱キテ故郷ヲ後ニ渡南シ來レル移住者ノ意氣ヤ壯トスヘク之ヲ中道ニシテ挫折セシムヘカラス宜シク植民地特有ノ不安定ナル氣分ヲ一掃シ各般ノ施設ヲ講シ其ノ安住ニ資スヘキナリ之カ施設トシテハ種々アルヘキモ就中精神の方面ノ夫トシテ神社造營ノ如キハ最モ緊要不可缺ノモノナリトス
思フニ敬神崇祖ノコトタル我國傳統ノ美風ニシテ又實ニ國民道德ノ根源タリ而シテ諸般ノ施政ハ常ニ祭祀ト一致シテ克ク其ノ實績ヲ舉ケ來レルヲ見ル 肇國以來二千五百有餘年茲ニ世界ニ比類ナキ歴史ヲ成セリ
帝國南進ノ第一線ニ立チ建國ノ精神ニ則リ四海ニ大義ヲ宣揚スヘク奮闘激勵ノ原動力トモナルヘキ神社南洋群島ノ守護神タル神社ノ造營ハ開發途上ニ在ル群島トシテ最大ノ急務ニシテ一度其ノ出現ヲ見シカ日夕社殿ヲ仰イテハ崇嚴ノ念ヲ喚起シ神聖ナル皇國ヲ追懷シ故郷ニ在ルノ思アラシムヘシ而シテ未タ群島總鎮守タル神社ナク又南進第一ノ據點タルバラオニハ一ノ神社アルナシ轉タ寂寥ノ感ニ堪ヘサルナリ
茲ニ第十八回施政記念日ヲ迎ヘ過去ニ於ケル先人ノ苦心經營開發ノ跡ヲ辿リ其ノ努力ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表スルト其ニ將來ノ發展ヲ企圖シ吾人ノ決意新々タルモノアリ此ノ秋ニ當リ群島在住民ノ淨財ヲ以テ南洋神社ヲ造營セントシ敢テ聲ヲ大ニシテ大方諸賢ノ賛同ヲ乞フ次第ナリ
昭和十一年七月一日

南洋神社造營計畫大要

南洋神社奉會ハバラオニ南洋群島ノ守護神タルヘキ南洋神社ヲ左記要領ニヨリ造營セントス

- 一 社 格 無格社トス但將來ハ官幣大社ニ列格ヲ希望
- 二 社 號 南洋神社
- 三 祭 神 天照大神 御神體ハ伊勢大神宮ヨリ之ヲ受ク尙攝社金刀比羅宮ヲ設ク
- 四 鎮座地及境内地 バラオ諸島コロール島アルボドル高地
- 五 建設物 本殿、垣、門、鳥居、拜殿、神饌所、手水舎、社務所
- 六 建設費及其ノ支辨方法

經費總額 金一〇〇、〇〇〇圓

内 譯

- 土木建築工事費 六八、〇〇〇圓
- 建築設計並現場技術員費 八、六〇〇圓
- 附帶工事費 二三、四〇〇圓
- 計 一〇〇、〇〇〇圓

造營總經費一〇〇、〇〇〇圓ノ中南洋應ヨリ一五、〇〇〇圓ノ補助ヲ仰キ爾余ノ八五、〇〇〇圓ニ付テハ寄附ニ俟ツモノトス

南洋群島バラオ島南洋廳内

南洋神社奉會



9220-2

449

I-0521

0463

公	信	案
越シタル処右ハ貴省所管事項ナルニ依リ茲ニ全人書翰及附 属金券其儘廻付スルニ付却查收相成シ 別紙茨城県鈴木良子来翰及全附属金券其儘添付ノ事		
外	務	省

本標準規 9220-2 451

發信用 執務用 主 信 甲 乙 丙 丁 備考 1 2 2 0 2		會計課長 會計課 出納 帳務	金券添付 主 信 受 南洋局長 普通 第七五號 昭和拾六年參月廿六日 日附 附屬 有	文書課長 文書課發送日 昭和拾六年參月廿四日發送済 淨書 正校(原稿) 未 (淨書) 未
南洋神社奉納金廻付ニ関スル件 ヨリ南洋神社ニ奉納致シ度キ趣ヲ以テ金券金拾月也送付	拓務省 森部拓南局長	名 件 先付送寫 南洋神社奉納金廻付ニ関スル件	名 人 信 發 齋藤南洋局長 古郷神北千信	昭和拾六年參月廿四日 金券 10.00 16.3.24

日本標準規格 B5 9220-2 450 26 33

I-0521

0464